

專門科目



授業科目	広域実践看護学特論		科目責任者	川野 亜津子	単位数	2.0	必修選択別	選択
			学内調整者		時間数	15	受講セメスター	1年次 前学期
到達目標等	概要	科学的根拠に基づく質の高い看護ケアや看護モデル創出につながるクリニカルケア開発の研究方法を探究し、研究に有用な概念枠組み・理論的基盤や方法論を検討する。さらに、研究課題に応じた量的・質的研究方法の選択、開発した看護ケア・モデルの評価、ヘルスケアシステムを踏まえた実践開発研究の発展について理解する。						
	到達目標	看護現象の客観的な分析と分析結果を探究する研究方法論および方法についての批判的吟味を通し、クリニカルケアにおける新たな看護実践を創出するための研究方法を理解する。						
回数 (1回90分)		学習課題	学習内容ならびに方法				担当教員	
1～2		看護実践におけるクリニカルケア開発の厳密性とケアシステムを見据えた看護実践研究、特にクリニカルケア開発研究における対象抽出に重要なサンプリング理論とサンプリングの方法の多様性など、対象抽出の厳密性	講義・討議・プレゼンテーション				川野亜津子	
3～4		概念枠組みの必要性さらに、量的研究におけるアウトカムモデルとサブストラクション、質的研究におけるサブストラクションについて、クリニカルケア研究論文の批評を通して研究方法論を攻究する。	講義・討議・プレゼンテーション				川野亜津子	
5～6		研究方法（量的質的研究方法の拡大やその選択）とその適切性、研究課題の明確化と研究方法の選択について、研究論文の批評を通して攻究する。	講義・討議・プレゼンテーション				川野亜津子	
7～8		クリニカルケア開発に有用な高度な統計学的手法について、クリニカルケア研究論文の批評を通して攻究する。	講義・討議・プレゼンテーション				角川	
9～11		クリニカルケア開発における研究変数の測定（評価）と尺度開発の研究方法について、研究論文の批評を通して攻究する。	講義・討議・プレゼンテーション				角川	
12～13		質的研究と量的研究のエビデンスの統合を踏まえ、Evidence Based Nursingを見出す方法とその成果の活用方法について、研究論文の批評を通して攻究する。	講義・討議・プレゼンテーション				川野亜津子	
14～15		ケアシステムを見据えたクリニカルケア開発における国内外の動向と最新の知見を踏まえ、研究方法について討議する。	講義・討議・プレゼンテーション				川野亜津子	
教科書	・ D. F. Polit, C.T. Beck著; 坂下玲子, 谷田恵子訳, Nursing research : generating and assessing evidence for nursing practice. 看護研究：原理と方法. 第3版. 医学書院. 2025. その他、適宜指示する。			参考書等	適宜指示する。			

履修条件	なし	評価方法	プレゼンテーション（50％）、討議内容（50％） 【評価のフィードバック方法】 学生に講評する。
備考	毎回課題を提示するので、最新の関連文献を熟読し、討論ができるように準備しておく。事後学習として、授業中に討議した内容から再考察する。予習復習に要する時間は46時間以上を必要とする。		

授業科目	広域実践看護学特別研究（令和元年～令和6年度の入学生対象）		科目責任者	村上 礼子	単位数	3.0	必修選択別	必修
			学内調整者		時間数	90	受講セメスター	1,2,3年次 前学期
到達目標等	概要	自らの実践経験と直面してきた看護実践の課題に基づく研究テーマに関する看護学および関連分野の国内外の先行研究の知見を踏まえ、独創性の高い研究課題を設定し、研究方法の検討を行う。研究計画書を作成し、「看護学研究計画審査会」の審査を受ける。						
	到達目標	ヘルスケアシステムや看護提供システムを視野に入れつつ複数の看護専門領域の視座を理解した上で、科学的な根拠に基づく看護ケアの開発やその看護ケアを効果・効率的に提供するためのケアシステム、ならびに施策・政策化に寄与する研究課題を設定し、研究計画を立案する。						
回数 (1回90分)		学習課題	学習内容ならびに方法				担当教員	
		研究課題の設定と研究計画の立案	1年次前期に、主研究指導教員の指導の下、博士論文作成に向けた3年間のコースワークの設定を行う。主研究指導教員から研究課題の焦点化と研究計画について指導を受ける。自らの研究テーマに関する国内外の先行研究の検討と先行する知見の整理により、研究課題を焦点化する。 2年次後期からは、主研究指導教員と副研究指導教員から指導を受ける。そして、研究課題を科学的に探究するにふさわしい研究方法を検討する。研究計画書を作成し、「看護学研究計画審査会」の審査を受ける。「看護学研究計画審査会」の審査結果に応じた研究計画の見直しと研究計画書の修正をする。博士前期課程・後期課程合同研究セミナー（年4回定期的に開催）における看護学研究科の教員による指導も受けながら研究を進める。					
		主研究指導教員になり得る教員の研究指導内容	慢性疾患の急性増悪も含めた重篤な状態や急性期などの看護実践から、在宅、回復期にある患者・家族への看護実践に必要な看護師の特定行為を含む看護技術の開発ならびに、看護技術教育の開発を探究する。				村上礼子：システム系	
		主研究指導教員になり得る教員の研究指導内容	リプロダクティブヘルス/ライツの視点から、女性とその家族の健康問題、健康課題を包括的に捉えるための基礎的研究、ならびに生活支援の展開、健康を保持増進するための方法を探究する。				川野亜津子：ケア系	
		主研究指導教員になり得る教員の研究指導内容	退院支援システムなど地域を視野に入れた支援システムの構築・機能化に関わる看護実践について、人材育成システムの観点も含めて、探究する。				塚本友栄：システム系	
		主研究指導教員になり得る教員の研究指導内容	次世代のヘルスケアシステムをめざし、医介連携や多職種連携による地域医療やケアの充実を視野に入れ、健康障害をもつ高齢者とその家族を中心に、医療機関や高齢者施設等における老年看護管理学の看護実践を探究する。				浜端賢次：システム系	
		主研究指導教員になり得る教員の研究指導内容	ケアシステムや健康危機管理体制など地域を基盤としたヘルスケアシステムの構築・機能化に関わる看護実践、特に行政分野に所属する看護職の看護実践や、へき地と都市部など地域特性に応じた看護実践を探究する。				春山早苗：システム系	
		その他の研究指導教員の研究指導内容	がんとともによりよく生きるための患者とその家族のセルフマネジメント向上、在宅療養への移行支援や慢性疾患のmultimorbidityの視点からの看護実践の開発を探究する。				内堀真弓：ケア系	
		その他の研究指導教員の研究指導内容	精神医療・医学の観点から、我が国のヘルスケアシステムの現状における在日外国人が抱える健康生活上の課題とそためのヘルスケアの開発を、異文化適応やストレス対応などの観点を含めて、探究する。				大塚公一郎：ケア系	
		その他の研究指導教員の研究指導内容	地域における健康危機管理体制づくりに関わる看護実践及び地域特性に応じた看護実践について探究する。特に災害時や平時における行政分野に所属する看護職の看護実践や、へき地等における看護職の看護実践を探究する。				島田裕子：システム系	
		その他の研究指導教員の研究指導内容	妊娠・出産・育児期における母子およびその家族が抱える健康問題に対して、現代社会における家族の特性を踏まえた教育プログラムの開発や、世代や地域特性に応じた母子とその家族への看護実践の開発について探究する。				角川志穂：ケア系	
		その他の研究指導教員の研究指導内容	新たなヘルスケアシステムの構築を見据え、健康課題をもつ地域で生活する子どもと家族や、入院する子どもと家族へのよりよい看護実践を探索する。特にセルフケア獲得の支援や移行期など子どもの自立支援に関連した看護支援を探索する。				田村敦子：ケア系	
		その他の研究指導教員の研究指導内容	患者教育、診療看護技術などの臨床看護を基盤とした看護実践の質の向上に寄与するヘルスケアシステムについて、理論構築、概念開発、尺度開発の手法を含めて探究する。				長谷川直人：システム系	

回数 (1回90分)		学習課題	学習内容ならびに方法		担当教員
		その他の研究指導教員の研究指導内容 研究指導補助教員の研究指導内容	精神的な問題を持つ人および精神障害者とその家族のセルフケアを促進し、地域生活を継続するとともに、より質の高い生活となるような看護実践を探究する。 量的研究手法について指導する。		(非常勤)永井優子：ケア系 関山友子：システム系
教科書	指定しない			参考書等	指定しない
履修条件	なし			評価方法	「看護学研究計画審査会」の承認を単位取得の条件とする。 1. 学位論文審査基準6項目(「研究テーマの目的の明確性および広域実践看護学分野の目的との適合性」等)と、立案した研究計画の該当性(50%) 2. 研究計画の立案を、他の授業科目の学修、合同研究セミナーおよび主研究指導教員・副研究指導教員による指導により、精錬させていく能力(50%)。 【評価のフィードバック方法】 学生に講評する
備考	自己の研究テーマについて、これまでに取り組んできた研究の成果を整理し、広域実践看護学分野において、何をどのように発展させたいのかを考えて臨むこと。アクティブ・ラーニングの方法を活用する。予習復習に要する時間は36時間以上を必要とする。 特別講義には授業の一環として必ず参加すること。				

授業科目	広域実践看護学特別研究（令和7年度以降の入学生対象）		科目責任者	村上 礼子	単位数	3.0	必修選択別	必修
			学内調整者		時間数	90	受講セメスター	1, 2, 3 年次 前学期
到達目標等	概要	自らの実践経験と直面してきた看護実践の課題に基づく研究テーマに関する看護学および関連分野の国内外の先行研究の知見を踏まえ、独創性の高い研究課題を設定し、研究方法の検討を行う。研究計画書を作成し、「看護学研究計画審査会」の審査を受ける。						
	到達目標	ヘルスケアシステムや看護提供システムを視野に入れつつ複数の看護専門領域の視座を理解した上で、科学的な根拠に基づく看護ケアの開発やその看護ケアを効果・効率的に提供するためのケアシステム、ならびに施策・政策化に寄与する研究課題を設定し、研究計画を立案する。						
回数 (1回90分)		学習課題	学習内容ならびに方法				担当教員	
		研究課題の設定と研究計画の立案	1 年次前期に、主研究指導教員の指導の下、博士論文作成に向けた3年間のコースワークの設定を行う。主研究指導教員から研究課題の焦点化と研究計画について指導を受ける。自らの研究テーマに関する国内外の先行研究の検討と先行する知見の整理により、研究課題を焦点化する。 2 年次後期からは、主研究指導教員と副研究指導教員から指導を受ける。そして、研究課題を科学的に探究するにふさわしい研究方法を検討する。研究計画書を作成し、「看護学研究計画審査会」の審査を受ける。「看護学研究計画審査会」の審査結果に応じた研究計画の見直しと研究計画書の修正をする。博士前期課程・後期課程合同研究セミナー（年4回定期的に開催）における看護学研究科の教員による指導も受けながら研究を進める。					
		研究公正に関する基礎知識	「看護学研究計画審査会」の受審は、研究公正に関する基礎知識を以下の方法でe-learningにて学修していることを前提とする。「看護学研究計画審査会」に研究計画を申請する際、e-learning修了証を提出する。下記に指定したe-learningを過去5年以内に修了している場合は、その修了証の提出により「看護学研究計画審査会」を受審できる。 研究公正に関する基礎知識の学修方法 公正研究推進協会（APRIN）提供のe-learningプログラムより、「責任ある研究行為 - 生命医科学系 - 」の10単元（下記）を各自で学修する。1単元あたり、所要時間は30分程度である。 責任ある研究者の行為について 研究における不正行為 データの扱い 共同研究のルール 利益相反 オーサiership 盗用と見なされる行為 社会への情報発信 ピア・レビュー メンタリング					
		主研究指導教員になり得る教員の研究指導内容	慢性疾患の急性増悪も含めた重篤な状態や急性期などの看護実践から、在宅、回復期にある患者・家族への看護実践で必要な看護師の特定行為を含む看護技術の開発ならびに、看護技術教育の開発を探究する。				村上礼子：システム系	
		主研究指導教員になり得る教員の研究指導内容	リプロダクティブヘルス/ライツの視点から、女性とその家族の健康問題、健康課題を包括的に捉えるための基礎的研究、ならびに生活支援の展開、健康を保持増進するための方法を探究する。				川野亜津子：ケア系	
		主研究指導教員になり得る教員の研究指導内容	退院支援システムなど地域を視野に入れた支援システムの構築・機能化に関わる看護実践について、人材育成システムの観点も含めて、探究する。				塚本友栄：システム系	
		主研究指導教員になり得る教員の研究指導内容	次世代のヘルスケアシステムをめざし、医介連携や多職種連携による地域医療やケアの充実を視野に入れ、健康障害をもつ高齢者とその家族を中心に、医療機関や高齢者施設等における老年看護管理学の看護実践を探究する。				浜端賢次：システム系	
		主研究指導教員になり得る教員の研究指導内容	ケアシステムや健康危機管理体制など地域を基盤としたヘルスケアシステムの構築・機能化に関わる看護実践、特に行政分野に所属する看護職の看護実践や、へき地と都市部など地域特性に応じた看護実践を探究する。				春山早苗：システム系	
		その他の研究指導教員の研究指導内容	がんとともによりよく生きるための患者とその家族のセルフマネジメント向上、在宅療養への移行支援や慢性疾患のmultimorbidityの視点からの看護実践の開発を探究する。				内堀真弓：ケア系	

回数 (1回90分)	学習課題	学習内容ならびに方法	担当教員
	その他の研究指導教員の研究指導内容 その他の研究指導教員の研究指導内容 その他の研究指導教員の研究指導内容 その他の研究指導教員の研究指導内容 その他の研究指導教員の研究指導内容 研究指導補助教員の研究指導内容	精神医療・医学の観点から、我が国のヘルスケアシステムの現状における在日外国人が抱える健康生活上の課題とそのためのヘルスケアの開発を、異文化適応やストレス対応などの観点を含めて、探究する。 妊娠・出産・育児期における母子およびその家族が抱える健康問題に対して、現代社会における家族の特性を踏まえた教育プログラムの開発や、世代や地域特性に応じた母子とその家族への看護実践の開発について探究する。 新たなヘルスケアシステムの構築を見据え、健康課題をもつ地域で生活する子どもと家族や、入院する子どもと家族へのよりよい看護実践を探索する。特にセルフケア獲得の支援や移行期など子どもの自立支援に関連した看護支援を探索する。 患者教育、診療看護技術などの臨床看護を基盤とした看護実践の質の向上に寄与するヘルスケアシステムについて、理論構築、概念開発、尺度開発の手法を含めて探究する。 精神的な問題を持つ人および精神障害者とその家族のセルフケアを促進し、地域生活を継続するとともに、より質の高い生活となるような看護実践を探究する。 量的研究手法について指導する。	大塚公一郎：ケア系 角川志穂：ケア系 田村敦子：ケア系 長谷川直人：システム系 (非常勤)永井優子：ケア系 関山友子:システム系
教科書	指定しない	参考書等	指定しない
履修条件	なし	評価方法	「看護学研究計画審査会」の承認を単位取得の条件とする。 1．学位論文審査基準6項目（「研究テーマの目的の明確性および広域実践看護学分野の目的との適合性」等）と、立案した研究計画の該当性（50％） 2．研究計画の立案を、他の授業科目の学修、合同研究セミナーおよび主研究指導教員・副研究指導教員による指導により、精錬させていく能力（50％）。 【評価のフィードバック方法】 学生に講評する
備考	自己の研究テーマについて、これまでに取り組んできた研究の成果を整理し、広域実践看護学分野において、何をどのように発展させたいのかを考えて臨むこと。アクティブ・ラーニングの方法を活用する。予習復習に要する時間は36時間以上を必要とする。 特別講義には授業の一環として必ず参加すること。		



専門関連科目



授業科目	地域保健医療研究論		科目責任者	春山 早苗	単位数	2.0	必修選択別	選択		
			学内調整者		時間数	30	受講セメスター	1年次 後学期		
到達目標等	概要	地域保健医療の将来像を踏まえ、医学、情報学等の他の学問分野における課題を見出し、人々を取り巻く地域保健医療システムに関する研究方法や最新の知見を学修する。								
	到達目標	国内・国外の学術誌に掲載されている、地域保健医療の最新の知見や研究方法を探究するとともに、その探究を通じて、広い視野と深い洞察、保健医療情報に関する総合的な判断能力を涵養する。また、看護の新たな概念・知識体系を構築するために、多角的視野、学際的視野で看護実践を見直したり、保健医療情報に関する課題を見出したりする能力を育成する。さらに、学際的な視野に立った研究計画を立案するための知識や理論を修得する。								
回数 (1回90分)		学習課題	学習内容ならびに方法				担当教員			
1		「地域保健医療研究方法論」序論					(非常勤) 北田			
2		地域保健医療における現状の課題(1)					地域保健医療概論		(非常勤) 塚原	
3		地域保健医療における現状の課題(2)					地域での研究等		(非常勤) 杉田	
4		地域保健医療における現状の課題(3)					地域での看護介護		(非常勤) 折茂	
5		地域保健医療の現場に密着した調査研究の概観(1)					N Pの現状		(非常勤) 山田	
6		地域保健医療の現場に密着した調査研究の概観(2)					地域医療におけるN Pの活用		(非常勤) 大海	
7		地域保健医療の現場に密着した調査研究の概観(3)					地域医療におけるN Pの今後		(非常勤) 大海	
8		地域保健医療のパラダイム(1)							(非常勤) 吉新・山田・折茂・塚原・大海	
9		地域保健医療のパラダイム(2)							(非常勤) 吉新・山田・折茂・塚原・大海	
10		データを用いた地域保健医療研究の実際(1)							(非常勤) 小池	
11		データを用いた地域保健医療研究の実際(2)							(非常勤) 小池	
12		地域保健医療研究の研究手法論の探究(1)							(非常勤) 北田	
13		地域保健医療研究の研究手法論の探究(2)							(非常勤) 北田	
14		地域保健医療研究の研究手法論の探究(3)							春山早苗	
15		地域保健医療研究における今後の課題							春山早苗	
教科書	指定しない			参考書等	指定しない					
履修条件	なし			評価方法	1. 授業への参加態度(約15%) 2. プレゼンテーションの内容(約35%) 3. 討議の内容(約50%) 【評価のフィードバック方法】 学生に講評する					

備 考	事前準備としては、地域保健医療における課題を自らの経験に照らして考えておくこと。事後は、授業内容を振り返り、自らの研究に何を活かせるかを考えてみること。予習復習に要する時間は46時間以上。
--------	--

